

令和5年度
劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人富山県文化振興財団	
施 設 名	富山県利賀芸術公園	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	18,996	(千円)
公演事業	16,816	(千円)
人材養成事業	1,048	(千円)
普及啓発事業	1,132	(千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	SCOT サマー・シーズン 2023	2023年8月25日(金) ～9月10日(日)	『世界の果てからこんにちはI』 『トロイアの女』 演出：鈴木忠志 出演：SCOT	目標値	1,378
		富山県利賀芸術公園		実績値	1,751
2	富山県の高校生による郷 土芸能発表会	2023年6月11日(日) 6月18日(日)	「越中おわら」「五箇山民謡」 富山県立八尾高等学校郷土芸能部 富山県立南砺平高等学校郷土芸能部	目標値	380
		富山県利賀芸術公園		実績値	305
3	スズキ・トレーニング・ メソッド公開	2024年3月24日(日)	スズキ・トレーニング・メソッドの 公開 解説：鈴木忠志 出演：SCOT、「Suzuki Toga Camp, March 2024」参加者(12カ国21名)	目標値	143
		富山県利賀芸術公園		実績値	74

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高校生夏期演劇講習会	2023年8月4日(金) ~8月5日(土)	講習会 講師：村井まどか氏他2名 内容：ワークショップ、課題創作、 課題発表など	目標値	90
		富山第一高等学校 富山県利賀芸術公園		実績値	78
2	利賀インター・ゼミ 2023	2023年9月8日(金) ~9月10日(日) 2023年9月1日(金) ~9月2日(土)	・研究コース：テーマに沿った研究 発表、討論会、観劇 ・実践コース：演劇ワークショップ の実施	目標値	45
		富山県利賀芸術公園		実績値	25

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	富山県内での出張演劇講座	2023年5月23日(火) 6月14日(水) 8月14日(月) 9月29日(金)	・スズキ・トレーニング・メソッド 体験会 講師：SCOT 俳優 ・講座 「演劇の観方、楽しみ方」についての講義 講師：重政良恵氏	目標値	119
		南砺市立利賀小・中学校 南砺市井波総合文化センター他		実績値	138
2	富山県民・南砺市民対象の舞台芸術鑑賞会	2023年8月26日(土) 9月9日(土)	「日中韓3カ国語版『ディオニュソス』」公演 演出：鈴木忠志、出演：SCOT	目標値	115
		富山県利賀芸術公園		実績値	84

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>利賀芸術公園は、富山県利賀芸術公園条例で「利賀において展開され、世界的に名声を博してきた演劇活動を更に発展させることにより、舞台芸術その他の芸術文化の創造と振興に寄与する」と定められる通り、鈴木忠志氏と劇団SCOTが利賀に拠点を移して50年目を迎える現在「演劇の聖地」としての国際的な評価をゆるぎないものになっている。</p> <p>この唯一無二の文化拠点の将来的な継続のために、地元の財産として活かし根付かせることを長期的な目標に据え、令和5年度を新たなスタートと考えて、「富山県の高校生による郷土芸能発表会」と「富山県内での出張演劇講座」を新規事業として実施。結果、地元高校生を中心に多くの若い世代に開かれた環境をつくることができた。</p> <p>「SCOT サマー・シーズン 2023」では、当初予定していた新作の上演を、『トロイアの女』に変更。戦争の悲惨さを普遍的に描いた本作は、4月にウクライナの隣国ハンガリーで開催された「第10回シアター・オリンピックス」で上演し高い評価を受けたことから、日本でも今こそ上演すべきと考え変更に至った。同じく戦争を描いた『世界の果てからこんにちはⅠ』の上演と合わせて、現在の世界情勢を考える機会になったという感想も目立った。若い世代の観客からは、「1人の命が奪われることの悲惨な心情が身体を通して伝わり、それが世界で何万人という規模で起きていることのリアルを感じた」などの声上がり、文化拠点の役割の重要性を改めて感じた。</p> <p>「富山県内での出張演劇講座」では、「じょうはな座」（南砺市城端）での映像上映と講座を予定していたが、希望の日程が合わず、地元の小中学校の依頼があったことから、SCOT劇団員による「スズキ・トレーニング・メソッド体験会」に変更した。子どもたちが身体を動かして楽しみながら演劇に触れ、自分の地元で世界に誇れる文化芸術があることを身近に感じる機会として有意義だった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>令和5年度に新たに実施した公演事業「富山県の高校生による郷土芸能発表会」において、文化的、社会的、経済的意義の継続についての、特に大きな成果が認められたと考える。</p> <p>【文化的意義】</p> <p>富山県には、「越中おわら」「こきりこ」等、世界に誇る郷土芸能が若い世代に受け継がれており、参加校は全国高校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞するなどの目覚ましい活動成果を残している。利賀芸術公園が築いてきた国内外へのネットワークと発信力によって、県内に対しては地元の高校生の活躍を伝える機会に、県外には富山県の郷土芸能の魅力を伝える機会になった。</p> <p>【社会的意義】</p> <p>文化拠点として若い世代と芸術の結びつきを支え、育てていくことが、地域の活性化へ果たす役割だと考える。富山県が実施した「文化に関する県民アンケート調査」（令和4年8月）の結果から、子どもたちの文化芸術鑑賞・発表の場の創設が望まれていると読み取れることから、地域の伝統を未来へつないでいくために充実した施設群を活かすことで、地域のニーズに応えることができているといえる。また、より優れた芸術が育つ土壌をつくることは、地域の活性化と地域住民の「真の幸せ」（ウェルビーイング）の向上にとって大切だと考えている。</p> <p>【経済的意義】</p> <p>本事業によって高校生の家族など新たな客層を呼び込んだことで、文化拠点の継続に必要な不可欠である、地域の理解と支援の基盤を強化することができた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

<公演事業>

入場率 95%以上を目指す。→95.5%で目標を達成。

海外からの入場者数 10%を目指す。→10.8%で目標を達成。

支援会員を前年度比 9%の増加を目指す。→8.0%でわずかに目標に達成しなかった。

富山県外からの入場者数 65%を目指す。→68.2%で目標を達成。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
対象公演数	3作品 6公演	2作品 4公演	5作品 10公演
入場者数	1,274人	1,228人	2,130人
入場定員	1,340人	1,340人	2,230人
入場率	95.1%	91.6%	95.5%
海外からの 観客数(割合)	0人 (0%)	101人 (8%)	232人 (10.8%)
支援会員 (SCOT倶楽部) の会員数	8,154人 (前年度比8.0% 610人増)	8,921人 (前年度比9.4% 767人増)	9,628人 (前年度比8.0% 707人増)
富山県外からの 観客数(割合)	816人 (64%)	708人 (58%)	1,454人 (68.2%)

入場者数は、コロナ禍がおさまったこともあり目標動員数の 95%を上回ることができた。

高校生による郷土芸能発表会を実施したことにより、新たな客層を呼び込むことができた。

<人材養成事業>

高校生会期演劇講習会

富山県高等学校演劇研究協議会（高文連演劇専門部）に加盟している 16 校すべてからの参加を目指す。

→10 校が参加。 目標が達成できなかった。

参加率 90%を目指す。→ 参加率 78%で目標を達成できなかった。

利賀インター・ゼミ

全国 10 大学からの参加を目指す。→ 11 校の参加 目標達成。

参加率 90%を目指す。 → 参加率 50%で目標に届かなかった。

どちらの事業も過去 3 年間のコロナ禍による活動制限で部員やサークルに参加する生徒や学生が少ないため参加人数が少なかった。しかし、少人数で丁寧な指導ができたため、「有意義な体験ができた。来年度も参加したい」参加した生徒や学生の満足度は高かった。

<普及啓発事業>

富山県内での出張演劇講座

参加率 70%以上を目指す。 → 参加率 81%で目標を達成。

富山県民・南砺市民対象の舞台芸術鑑賞会

参加率 80%以上を目指す。→ 参加率 84%で目標を達成。

出張演劇講座に参加した方が、送迎バスがある舞台鑑賞会に参加するという相乗効果が生まれた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業>

「SCOT サマー・シーズン」は、例年8月下旬から9月上旬の開催で定着している。令和5年度も同じ日程で開催できたため、海外を含め遠方の来場者にとっても予定が立てやすく適切であったといえる。

「富山県の高校生による郷土芸能発表会」は、南砺平高校と八尾高校の郷土芸能部に依頼し、同日2校の発表予定だったが、日程の調整がつかず、2日間に分けて、各校が日頃指導を受けている地元の保存会の方々と一緒に出演するプログラムに変更。両方の高校の顧問教諭から「実際指導を受けている保存会の方々の舞台を観る機会がこれまでほとんど無かった。実際の舞台を観ることで、言葉だけでは理解しきれなかった部分を感じ取ることができ、生徒たちにとってすごく良い経験となった」と感謝の言葉をいただいた。また観客からは、正統派の保存会の舞台と高校生らしさを生かした舞台を見比べることができたことと好評であった。

「スズキ・トレーニング・メソッド公開」は、新利賀山房での『「からたち日記」由来』（演出：鈴木忠志、出演：SCOT）と同日の開催に変更したことで、来場者が「スズキ・トレーニング・メソッド」がどのように舞台作品に結びついているのかが体感できる貴重なプログラムが実現した。

<人材養成事業>

「高校生夏期演劇講習会」は、1泊2日を予定していたが、教員の働き方改革の影響で宿泊を伴う実施が難しくなったため、日帰り2日間に変更。「利賀インター・ゼミ2023」も、新型コロナウイルス感染症の影響で大学側が宿泊を伴う活動を制限しているため2泊の予定を1泊に変更。

両事業とも長年の継続で学校側と協力体制を築いてきたことで、状況に柔軟に対応しながら、質を落とさない開催を実現できた。参加を楽しみにする生徒たちの期待に応えるためにも、今後も連携を強化していきたい。

<普及啓発事業>

「富山県内での出張演劇講座」は、当初の予定通り「SCOT サマー・シーズン」の開催前の時期にPRとして実施できたことで、参加者がその場で観劇予約をするなど、県内での新規観客の開拓に繋がった。

「富山県民・南砺市民対象の舞台芸術鑑賞会」も、例年「SCOT サマー・シーズン」の時期に開催している。令和5年度も同じ時期に2回開催できた。特に南砺市民の申し込みが増加していることから、地元にある利賀芸術公園で舞台作品を観ることが、周辺の地域住民に着実に受け入れられている様子が見受けられる。開催時期の定着により、リピーターや、鑑賞会をきっかけに個人で「SCOT 倶楽部」に登録し来場する方も増えている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業>

「SCOT サマー・シーズン2023」では、助成金によって、当初の計画通りに富山駅から会場までの連絡バスを運行することができた。アクセスを容易にすることは、海外や県外からの来場者や初めて利賀を訪れる来場者の後押しになっている。

「富山県の高校生による郷土芸能発表会」では、公演日が2日間に増えたが、当日の駐車場等の警備を外部委託せずに利賀芸術公園職員が担当するなど経費が膨れ上がらないよう工夫をした。

「スズキ・トレーニング・メソッド公開」は、当初令和5年11月に予定していたところを令和6年3月に変更した。それにより『「からたち日記」由来』公演（他補助事業）と同日開催となり、観客の送迎バス（連絡バス）等の経費を振り分けることができたため、費用を節約することができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

世界の演劇界に貢献する利賀芸術公園が持つ資源

鈴木忠志と劇団 SCOT
をはじめとする
芸術における専門人材

世界で高く評価される
スズキ・トレーニング・メソッド
と舞台作品

自然に囲まれた
芸術家による芸術家のための
理想的な創造活動・発表の場

・「SCOT サマー・シーズン 2023」で、国際演劇評論家協会（AICT）利賀会議「世界の評論家によるシンポジウム」を実施。世界各国の理事が訪れ、利賀の創造環境や演劇祭の運営を高く評価し、自国で発信してくれている。

・令和4年度から実施している人材育成事業「桃太郎の会」では他地域と連携し、次世代の日本の演劇人と共同で作品を創造・発表。利賀は、地域における国際的、芸術的文化事業の先駆として、他地域の芸術活動にも影響を与えている。

・1983年より、「スズキ・トレーニング・メソッド」を合宿して学ぶプログラムを実施。これまでに海外からは48カ国780名が参加している。
(以上、助成対象事業外における成果)

令和5年度は、これらの資源を次世代のために活用する事業を中心に、実施した。

⇒利賀の文化芸術に触れる多角的な機会を創設し、地元の若い世代のシビックプライドを向上

⇒世界第一線の創造活動を行ってきた利賀の環境・施設を、次世代の演劇人に開放し活用する

⇒演劇以外の分野の方にも利賀の魅力を体感してもらい、より広い世代に開かれた広場をつくる

・「富山県の高中生による郷土芸能発表会」では、ユニークな劇場空間と演劇に専念できる環境を、次世代の活動に活用。照明や音響のスタッフとして SCOT の劇団員が参加し、本格的な舞台に立つことができたと参加者から好評だった。

・「富山県内での出張演劇講座」では、SCOT 芸術局長であり利賀芸術公園の芸術プロデューサーである重政良恵氏が、県内各地で利賀の演劇の魅力を伝える入門的な講座を開催し、興味はあってもまだ実際に利賀での観劇体験に至っていなかった層にアプローチした。少人数で気軽に質疑応答などができるようにしたことで丁寧なコミュニケーションが生まれ、実際に観劇に訪れてもらうこともできた。

・地域の小中学生のもとに SCOT の劇団員が訪問した「スズキ・トレーニング・メソッド体験会」は、子どもたちが地元を拠点としている劇団と交流するユニークな機会となり、メディアにも注目された。SCOT の俳優たちが日々行っている「スズキ・トレーニング・メソッド」は、鈴木忠志氏が創出した俳優訓練法で、世界の演劇教育機関で学ばれているが、総本山である利賀で学びたいとの国内外からの問い合わせは年々増えており、作品鑑賞と並んで多くの演劇人を利賀に引き寄せる要因となっている。

・「富山県民・南砺市民対象の舞台芸術鑑賞会」は、地元の世界に誇れる文化芸術拠点があることを知ってもらい、質の高い観劇体験を楽しんでもらうことを目的とした事業として定着している。送迎バスや事前の作品解説を用意し、興味はあるものの観劇を躊躇してしまう方をサポートすることで、文化拠点としての魅力を気軽に体験してもらっている。参加をきっかけとして「SCOT 倶楽部」支援者が増えることで、劇場の活動を継続する原動力にもなる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

利賀芸術公園は優れた舞台芸術を鑑賞できる場として、すでに国内外から認知されているが、令和5年度は上演作品を観てもらおうという以外の、多様な関わり方ができる事業を実施することができた。次世代が舞台芸術に触れる場・学ぶ場を積極的につくることで、将来的な地域の舞台芸術の振興に貢献したと考える。

各事業で、参加者や来場者からアンケートを回収。以下に一部を掲載。

特に「富山県の高校生による郷土芸能発表会」では、来場者の半数以上が利賀芸術公園に来るのが初めてで、文化拠点として裾野を広げることに成功したといえる。6月11日の回では、最後に「越中おわら」の輪踊りを来場者も一緒に行ったことで一体感が生まれ、郷土芸能を地域全体で守り発展させていくために文化拠点が果たす役割の可能性が具現化した。来年度以降も継続することで、地域実演芸術の発展に寄与していきたい。

●「富山県の高校生による郷土芸能発表会」

- ・高校生の皆さんの芸に対する姿勢努力に感動しました。これからも頑張っって傳承していって下さい。
- ・高校生による地元の芸能という事業が良い。これからの世代につなぐ良い計画であると思う。
- ・地元の高校生の活動に感謝。保存会の指導の賜物。
- ・郷土芸能を広く知ってもらおう意味で重要かつ地域の活性化にもつながり利賀村のイメージUPにもつながる。
- ・郷土芸能を本格的な会場で観ることができる。普段は利賀までなかなか来る機会が無いので。

●「スズキ・トレーニング・メソッド公開」

※「高校生夏期演劇講習会」の参加者も含めた県内の高校演劇部員ほか関係者21名が来場。

- ・世界12カ国からプロとして活躍しておられる方々が練習生として集まっていることに驚きました。
- ・体の重心だったり、水平移動だったり、実際に練習に取り入れていきたいなと思いました。
- ・みなさんの統一された動きから、演劇に対する思いも同じくらい大きいのだということが伝わってきて、私たちも頑張っっていこうと決意を固めました。演劇をする上で、大事なことは世界共通なのだと思います。

●「スズキ・トレーニング・メソッド体験会」

- ・普段使わない筋肉を使っってみんなで楽しむことができ、とても楽しかった（小6）
- ・始めてやることばかりだった。演技をするには体幹や歩き方にも工夫があるとわかった。（小6）
- ・いつも観ているSCOTの練習を体験できるなど思っってもみななかった。時に楽しく時に難しい素晴らしい練習だと思っった。勝手にまねしたことはあっったけれど、体の動かし方が正しいと、こんなにも大変だと思っった。（中1）
- ・自分を伸ばすことにもつながるし、利賀の歴史や文化としてつないでいくことが大切だと思っった。またこうした体験をすることで、演劇への関心が深まると思っった。（中2）

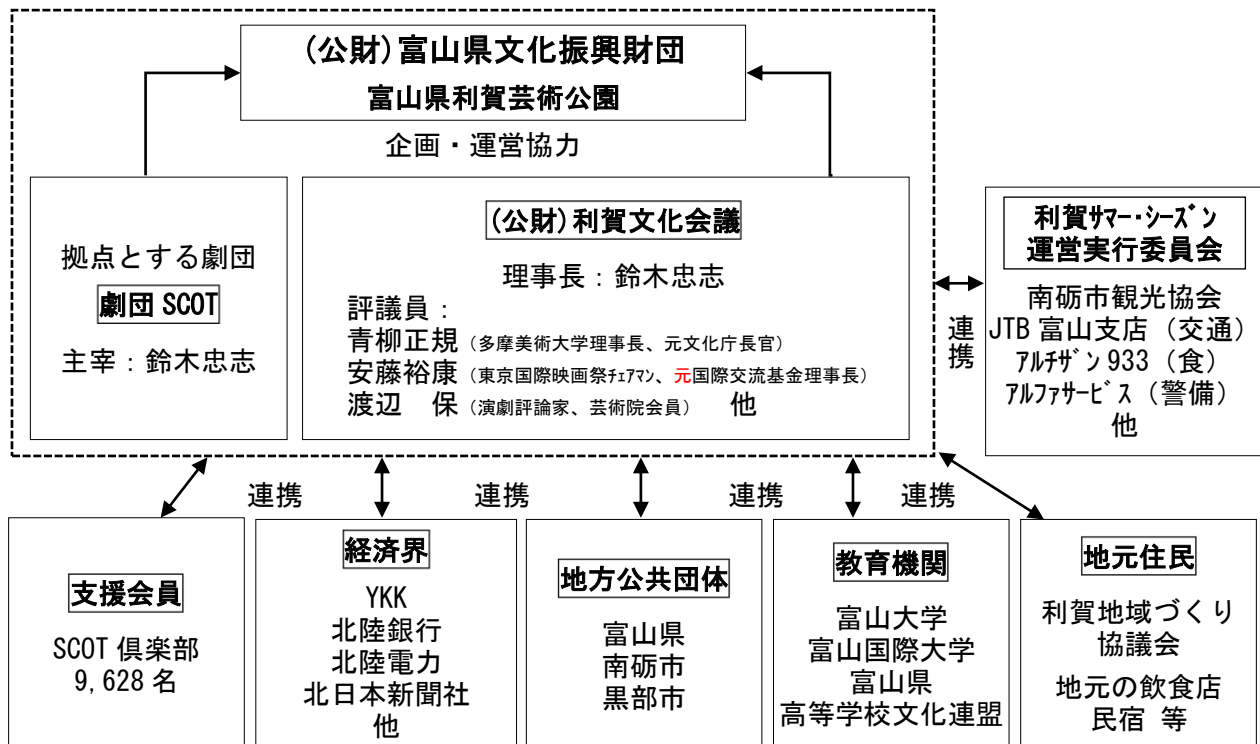
●「利賀インター・ゼミ2023」（実践コース）

- ・プロの方に教えてもらい今まで自分が弱点だと感じていたところを解決することができた。
- ・自分では気づいていなかった魅力や特性を講師の方が瞬時に見抜いてくださり、個々に合ったアドバイスをいっただけでっごく勉強になった。
- ・相手からのエネルギーを汲み取ることでより自然な演技に繋がり、相手・観客により強いエネルギーを伝えることができると学んだ。今後に生かしていきたい。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。



- ・2013年より利賀での公演では、入場料金を設定せず、活動自体を社会事業として応援する気持ちを「お志」としていただく形をとっている。観客＝支援者として、享受するだけでなく双方向の関係性ができあがっている。
- ・近年、黒部市・金沢市との結びつきを強め、利賀は北陸地方の文化拠点の要にもなっている。「利賀インター・ゼミ2023」（実践コース）では、金沢を拠点に活躍し、利賀での演出経験も持つ演出家が指導に当たっている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、高校演劇部員が利賀に来る機会が減少していたが、公演を鑑賞する機会を設けるなど、県内の学校との連携を強化し、教育の場としても利賀芸術公園の可能性を広げていきたい。
- ・「富山県内の高校生による郷土芸能発表会」に参加した県立南砺平高校は郷土芸能部の活動が全国的にも知られており、2025年度入学分から全国募集を行う。互いに協力して県内外に郷土芸能などの舞台芸術の魅力を伝えていく活動を今後も続けていきたい。
- ・「利賀インター・ゼミ2023」では例年利用していた近隣の宿泊場所が使えなくなってしまったが、範囲を広げて宿泊先を検討したことで新たな協力者の掘り起こしができ、より広い地域に取り組みを知ってもらえた。
- ・「SCOT サマー・シーズン」期間にグルメ館で来場者アンケートを実施し、意見要望を運営に反映させている。アクセス改善に努めることで若い世代や海外の観客など、新規の来場者の掘り起こしができた。

※宿泊・交通面の改善（助成対象事業外）：長崎温泉への送迎バスの運行、富山駅からの連絡バスの増便、金沢方面、高岡・福光方面からの連絡バスの新設、会場間の周回シャトルバスを運行

40年以上開催し続けてきた演劇祭の評判などにより、他分野から多くの「交流人口」を生み出し地域に貢献してきた。観客との一過性でない関わりを築いてきたことで、その多くが定期的に利賀を訪れる「関係人口」として定着。さらには、演劇祭のスタッフ経験から利賀に興味を持った若い世代が移住するなど、「定住人口」増加の吸引力にもなっている。これらの実績に対して地元からの評価は高い。令和5年度は、周辺の利賀地域からさらに南砺市広域に協力者を増やすことができた。